

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	292400017
法人名	大東株式会社
事業所名	グループホーム鶴泊の家
所在地 (電話番号)	〒038-3522 青森県北津軽郡鶴田町鶴泊前田99-1 (電話) 0173-23-1618

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 1月 21日	評価確定日	平成 20年 2月 23日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 6月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	250 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢 平均	82.6 歳	最低 65 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田町立中央病院・中村内科医院・菊池歯科医院・特別養護老人ホーム鶴松園
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホ - ム敷地内の別棟に温泉棟があり、かけながしの温泉には4~5人入る風呂と檜の個浴があり、ゆっくり楽しみながら入れる環境にある。外には足湯があり、ここは地域の方にも開放され面会に来た家族と利用者が一緒に足湯に浸かるなど会話も弾む場になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めて評価の為、該当せず。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で評価をして意見を摺り合わせ取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議では、前回の会議を受けた取り組みの報告や参加者からのサービスに関する意見交換が行なわれている。家族からの要望などは即ケアプランに組み入れる努力をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族からの苦情は今の所ない。契約時に重度化やリスクの事について経営者から充分説明している。毎月ホ - ム便り発送時に意見、要望の記入用紙を入れ情報や苦情を受け入れる体制があることで家族の安心が図れている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方からは野菜をいただいたり、開放している足湯を利用してもらったりするなど大人から子供まで、日常的に交流が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「共に暮らし生きる事への支援」という理念をかがげ、家庭的な環境と地域交流を大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には経営者から理念、方針を充分説明している。月1回の会議や研修会で理念にふれ、話し合いをすることで共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣者と気軽に声をかけあい立ち寄ってもらったり、野菜をいただいたりするなど自然に交流が出来る。子供達も遊びにきたり、父兄と一緒に開放されている足湯を使ったりしている。又ホム内で行事を行う時には、踊りやカラオケなど地元の方との交流に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的は職員全員に伝え、自己評価は職員全員で取り組み意見の相違ある箇所等は皆で話し合い、改善計画を立て取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回運営推進会議を実施し、議事録の記載がある。地域の民生委員や老人クラブ会長、家族、行政からの参加もあり、意見交換も積極的に行なわれている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へは4カ月に1回、地域便りを配布している。また、推進会議の場で意見交換をし、サービスの向上に努めている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は地域福祉権利擁護事業の研修会に参加し知識を得、利用される方への対応が出来る体制になっている。他職員にも伝達し共有している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の取り組みとして内部研修を行い、日々のケアを確認し実践している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には医療連携体制を取っているケアの中身やリスク管理、緊急連絡体制についても詳しく説明している。家族からも不安や疑問点など聞き説明されているということで今後も継続して支援されることが望まれる。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回ホーム便りで担当職員から現在の入居生活状況を報告している。更に金銭管理では出納簿をつけて記録に領収書を添付し報告し、確認してもらっている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時にはお茶を飲みながらじっくりと話を聞くなど、家族が意見を話しやすいような雰囲気作りに努めている。月一回ホ - ム便りを送付する際、家族の意見、要望を記入していただく用紙も同封し、意見のあるときには、運営、サ - ビスに反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、家族の信頼関係を保つためにも、馴染みの職員が対応するようにしている。やむを得ず職員の異動がある場合には利用者の方にきちんと紹介している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内、県内だけでなく中央での研修にも参加し、ケアの質や個人のレベルアップを図っている。経営者が率先して参加し、職員にも機会を与え、学びの場を多くし人材育成に取り組んでいる。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入し、特に地区の同業者との研修会に参加し意見交換をして、その意見や経験などをケアに生かしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前から家庭を訪問し、馴染みの関係をつくり安心して入居できる体制をつくっている。入居時には本人の好物を用意するなど配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が野菜を採ってくると、出来る利用者の方が皮むきなどして一緒に後始末するなど、支援する側やされる側という意識ではなく、お互いが協働しながら、和やかな生活を送れるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で本人の希望や要望が出たら素早く対応している。意思疎通が困難な場合は、ちょっとした言葉や表情から、利用者の意思を推し測り、それとなく確認している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見や意向を聞き反映出来るように職員全員で意見を出しあい、アセスメントをしてケアプランに活かしている。ケアプランは家族の同意を得ている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月評価をし、3カ月に1回計画の見直しをしている。状態変化した場合はその都度見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況によって通院や送迎を柔軟に行なっている。ホ - ム企画の納涼祭や踊り、忘年会は地域の方も参加し利用者の満足にも繋がる支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院への通院を支援している。家族が同行しない場合には受診結果や状況を説明して支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、ホームが出来る事、出来ないことの説明をして、家族の意見や要望を聞き確認し、同意を得ている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法やプライバシーについては内部研修をしている。日々のケアでは利用者の尊重、誇り、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。トイレ誘導時には耳元で囁き、汚れた下着はトイレの中からダストシュート式に隣の汚物缶に入るような仕掛けを作り、支援をしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の気持ち尊重して個別に本日の希望を聞き、お風呂の時間、縫い物などの希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛りつけ、後片付けを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲み一緒に楽しく食事をしていいる。食事中は話をしないという利用者もいるので、静かな音楽でもあれば更に雰囲気がよい支援に繋がるのではないかと。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>温泉もあり毎日利用出来るが、別棟になっているので、冬期間は風邪予防を考慮し支援している。温泉にこだわりのある利用者には希望と状態に合わせてゆっくり入浴出来るよう支援をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家事や野菜の収穫など得意分野で1人ひとりの力を発揮してもらえよう、利用者と相談しながら、家事仕事、野菜の収穫、下ごしらえなど生活歴を考慮して支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や本人の気分、希望に応じて買い物やドライブ、散歩をし、外出した時には希望があれば外食などを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアをする方針を研修会で確認し、申し送りなどで方針を共有しながら支援をしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修会で鍵をかける事の弊害を職員は理解、周知し、夜間以外は鍵をかけないようにしている。出かける習慣のある利用者には一緒に会話をしながら出かけている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。地域の方にも協力得られるよう承諾を得て、体制を整えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取や水分摂取状況をチェックし記録し、職員が情報を共有している。栄養バランス、献立表も専門の栄養士にみてもらっているが記録がない。		献立は専門の栄養士にチェックしてもらっているのであれば、記録にきちんと残しておく事が望ましい。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成し研修会で学習しながら予防・対策に努めている。		マニュアルはあるが、具体的なホ - ムの状況に合わせたものとして見直すことが望ましい。来訪者への啓蒙も視野にいれ感染予防に努めることが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適度に換気調整されている。廊下には写真なども飾り、楽しかった思い出の空間となっている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や使い慣れた日用品が居室にあり、利用者の意向に沿って配置されている。		

 は、重点項目。